

夢占

楠山正雄

青空文庫

むかし、せつつのくに撰津国のとがの刀我野という所ところに、一匹びきの牡鹿おじかが住んでい
 ました。この牡鹿おじかには二匹ひきまか仲のいい牝鹿めじかがあつて、一匹びきの牝鹿めじかは
せつつのくに撰津国の夢野ゆめのに住すんでいました。もう一匹びきの牝鹿めじかは、海うみを一つ
 へだてたあわじのくに淡路国の野島のじまに住すんでいました。牡鹿おじかはこの二匹ひきの牝
じかあいだ鹿の間を始しじゆう終行つたり来きたりしてました。
 けれども牡鹿おじかは撰津せつつの牝鹿めじかよりも、淡路あわじの牝鹿めじかの方ほうを、よけい
す好すいていました。そしていつも淡路あわじの方ほうへ行あそつて遊あそんでいること
おほが多いので、夢野ゆめのの牝鹿めじかはさびしがつて、淡路あわじの牝鹿めじかをうらんで

いました。

二

ある日めずらしく牡鹿おじかは夢野ゆめののの牝鹿めじかの所ところへ来て、一日遊いちにちあそび暮くらしていました。そしてそのあくる朝あさ帰かえろうとする時とき、ふと悲かなしうな、心しんぱい配はいそうな目をして、ため息いきを一つつきました。牝鹿めじかはふしぎに思おもって、

「あなた、どうかなさいましたか。大たいそう顔かおいろ色が悪いわるようですね。」

とたずねました。

牡鹿は、

「なあに何でもありません。」

「強く首を振りました。」

「いいえ、ため息をおつきになつたりなんかして、きつと何か御心配なことがあるのでしよう。わけを話して下さいまし。」

「牡鹿がしつつかくせめました。そこで牡鹿もしかたなしに、じつはゆうべ、いやな夢を見てね。」

「いいました。」

「それはどんな夢。」

「何でもわたしが野の中を歩いていると、いつの間にか頭の上に草が生えて、背中には雪が積もった。どうしたのかと思つて、気

持ちが悪いから、雪を払おうとすると、夢が覚めた。いったい何の知らせだろうか。気になつてしかたがない。」

といいました。

すると牝鹿は、ふと思いついて、これはちようどいい折だから、こういう時に牡鹿をおどかして、もうこののち海を渡つて淡路へ行くことを、思い止まらせてやろうと考えて、でたらめな夢占をたてました。それは、頭に草が生えたとみたのは、かりゆうどの矢が首に当たる知らせで、背中に雪の積もつたのは、殺されて塩漬けにされる知らせなのです。

「だから今日は淡路へ渡るのは止して、ゆつくりここで遊んでおいでなさい。」

と牝鹿めじかはいいました。

「海うみを渡わたればきつと途とちゆう中でかりゆうどに射いられて、殺ころされるかも知しれません。」

そう聞きいて、牝鹿おじかはこわくなりました。どうしようかと思おもつて、とうとうその日は一日いちにちぐずぐず暮くらしていましたが、日が暮くれかかると、どうしてもがまんができなくなりました。もうなんでも野島のじまへ渡わたらずにはいられなくなりました。そこで夢野ゆめのの牝鹿めじかの止とめるのもきかずに、とうとう出かけて行きました。

するとまつたく占うらないのとおおり、海うみを渡わたる途とちゆう中中かりゆうどに見みつかつて、牝鹿おじかは首くびを射いられて殺ころされました。そしてそのなきがらは、雪ゆきのような塩しおの中中に詰つめられて、人に食たべられてしまいま

した。

ですから、うつかりじょうだんに占うらないなどを立たてると、それがほんとうになって、とんだ災さい難なんをうけることがあるものです。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夢占

楠山正雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>